

2 1 3

こんにちは。塾長の大井です。

5期生 M さん受験戦記第 5 回です。

豊島 2 回目の不合格を受け、私はかつての教え子に電話をかけました。

その子=まひろさんは、私の大手進学塾時代の一番最後の合格者でした。M さんと 5 年前のまひろさんの置かれた状況は、驚くほど酷似していました。1 月の浦和明の星でやられたこと、2/1 の第一志望を落としたこと、豊島岡 3 回目までもつれたこと。でもまひろさんは 3 回目で劇的な合格を果たし、私はまひろさん母子とうれし泣きに泣きました。

私は M さんに最後にやれることはないかと、まひろさんからの激励を頼みました。

そして、最後の仕上げに M さんともう一度、豊島岡の過去問の国語(一番波があった教科です)をやりました。結果は…、ボロボロでした。授業で教えたことを何もやろうとせず、我流でやって全く取れていませんでした。

(もうダメだ。)

今まであきらめたことがない私も、初めてそう思いました。ここに至って大井流田宮流が貫けないなら、もう勝機はありません。明日もまたやられるのは目に見えていました。

でも自分で感じるしかない。挫折してしか学べないことがあるのかもしれない。そう思って、「好きに戦ってこい。」ともう帰そうかと思いましたが。

でも最後の最後で、何かが私を押し留めました。できないなら何度でも見せてやる。そう思いました。

「M、よく見てろ。」そう言って、豊島岡の問題をMさんの目の前で全て解きました。

読解、本文チェック、問いチェック、作答、仕上げ。ずっとずっと言い続けてきた動きで、その全てを実演しました。Mさんは食い入るように見つめ、「解ける！これで全部解ける！すごい！！」とため息を漏らしました。

「いや、ずっと教えてきたことだよ。もう全部Mの中にあるんだよ！」
と言うと、何度もうなずいていました。横で田宮も何度もうなずいていました。

そして帰る直前、まひろさんからの電話がかかってきました。

まひろさんは技術的なことは何一つ言いませんでした。

「それはもう先生から習っているはずだから。だけどこれだけは忘れないで。絶対にひとりで戦ってると思わないで。先生や両親や自分を支えてくれるすべての人のことを思い出して。そうしたら最高の答案ができる！！」

その言葉にまた M さんは何度もうなずきました。目からは涙がこぼれ、心にしみているのが伝わってきました。

そして「受かってきます！！」と M さんは TOP を後にしました。

(次回につづく)

2020年7月10日

大井雄之